

第10回柿田川シンポジウム「生物多様性と自然を活かすとりくみ」

生態系グループ 研究員 福原富士美

1. はじめに

清流で有名な柿田川は、富士山に降った雨や雪が地下水になり、「湧き間」から地上にあらわれた水を水源とする湧水河川で、静岡県駿東郡清水町の中心部を南北に流れ、源頭部から約1.2kmで狩野川に合流します。

柿田川は湧水によって涵養されているため、水量や水質が極めて安定していることが大きな特徴です。一般の河川では洪水や渇水などで流量が変動し河川生態系が攪乱されることが基本となっているのに対し、柿田川では年間を通じて湧水量が約110万m³/日、水温が約15℃と安定しており、集水域が小さいために洪水による攪乱もほとんどありません。このことで斜面や上流域からの土砂供給が限定され、両河岸の植生が水際まで生育し、「湧き間」以外の河道の多くに水生植物が繁茂するなど、柿田川に特徴的な景観がみられます。



図-1 柿田川源頭部

「湧き間」から湧きだす地下水が柿田川の水源です

柿田川生態系研究会は、湧水河川「柿田川」について研究を行っている研究者の任意の集まりで、湧水という環境下にある柿田川の外界の条件と生活史、生物群集、生態系の構造と機能を明らかにし、湧水が河川にもたらす影響を湧水河川以外の多様な河川でもより深く理解することを目的に、平成12年に発足して以来、研究活動を行っています。

柿田川生態系研究会は研究活動以外にも、「河川環境保全の観点から、今後の柿田川のあり方を生態系の特性を把握していく中から地域の方々の意見を伺いつつ、ともに見出していく」という設立趣旨に基づき、生態学及び河川工学分野の学識経験者、地域住民、行政関係者が自由闊達な意見交換を行う場として、「柿田川シンポジウム」を毎年開催しています。

2. 第10回柿田川シンポジウム

柿田川生態系研究会の主催により、平成25年11

月9日(土)に、静岡県駿東郡清水町のホテル・エルムリージェンシーにおいて、第10回柿田川シンポジウム「生物多様性と自然を活かすとりくみ」が開催されました。当日は、柿田川の環境保全に取り組んでいる地元の方々や、柿田川の水を利用している住民の方々、行政関係者や研究者など約70名の参加がありました。

第10回柿田川シンポジウムのプログラムは以下のとおりです。

開会挨拶 柿田川生態系研究会代表 加藤憲二
(静岡大学大学院 教授)

■第一部 話題提供

塚越 哲 (静岡大学大学院 教授)

「生物多様性と種の認識」

谷田一三 (大阪府立大学 名誉教授)

「河川環境の現状と生物多様性」

三島次郎 (桜美林大学 名誉教授)

「柿田川における自然再生のとりくみ」

■第二部 ディスカッション

パネリスト 山岸 哲 (兵庫県立コウノトリの郷公園 園長) 他

話題提供は柿田川生態系研究会のメンバーから3件の発表がありました。また、話題提供者を含む柿田川生態系研究会メンバーを中心にディスカッションが行われ、地域の住民の方々からも活発な質問や意見が寄せられました。第10回柿田川シンポジウムの内容は、2月頃にインターネットでの公表を予定しています (<http://www.rfc.or.jp/>) ので、参加できなかった方もぜひご覧ください。



図-2 第10回柿田川シンポジウム会場の様子

3. おわりに

平成26年の秋には、第11回柿田川シンポジウムが開催される予定です。詳細は決定次第リバーフロント研究所ホームページでご案内します。今年もたくさんの方々のご参加をお待ちしております。